

ダム管理測量業務委託特記仕様書

第1章 総則

第1条 (適用)

この特記仕様書は、ダム管理測量業務委託に適用する。

〈神路ダム堤体変位測量〉

第2章 業務内容

第2条 (目的)

本業務は、神路ダムの管理の一環として、神路ダムに設置されている基標の水平変位測量及び水準測量を定期的に行い、堤体の変形等の異常の有無を観測するものである。

第3条 (水準測量)

1 作業内容

神路ダム及び周辺に設置されている基標19箇所(0.6km相当)について、水準測量を行う。

2 精度管理

2級水準測量に準じるものとする。

第4条 (堤体変位測量)

1 作業内容

ダム軸方向3測線、ダム軸直角方向3測線(計0.6km相当)について、水平変位を測量する。

2 作業方法

各測線の両端の基標を固定点とし、固定点の一方に機器を設置し、もう一方の固定点を視準し、その視準線に対し、堤体上の各測点(基標)の変位量を測定する。

これを(正)、(反)につき各1回ずつ観測する。

変位量は、ダム軸方向測線に対して、上流側への変位を+、下流側への変位を-、ダム軸直角方向測線に対して、右岸側への変位をR、左岸側への変位をLとする。

3 精度管理

国土交通省公共測量作業規程(第37条運用基準)による。

第5条 (観測の時期及び回数)

1 観測は、四半期毎に1回行い、年間4回観測を行うものとする。

2 1回の観測において、水準基標測量(19箇所)、堤体変位測量(ダム軸方向3測線、ダム軸直角方向3測線)を行うものとする。

第6条 (報告書のとりまとめ)

1 観測記録は、測定成果表にとりまとめる。

2 測定成果表(別紙様式参照)には、基標設置時の測定データ(別紙参照)、今回の測定データ(測定日、天候、気温、ダム貯水位、測定結果及び基標設置時測定値との変位)を記載する。

3 報告書は、測定成果表、精度管理表、その他必要資料をとりまとめ、電子記憶媒体で提出すること。

第7条（平成30年観測成果表）

- 1 報告書とは別に、第3回観測（12月期）後に、「平成30年観測成果表」を12月末までにとりまとめて、2部提出するものとする。
- 2 「平成30年観測成果表」は、測量済みの平成30年3月期（貸与）及び今回測定した平成30年6月期、9月期、12月期の4回の観測結果をとりまとめるものとする。

〈神路ダム及び恵利原ダム堆砂測量〉

第8条（目的）

本業務は、神路ダム及び恵利原ダムの管理の一環として、神路ダムは、中心杭の位置（9本）について深淺測量を、恵利原ダムは、中心杭の位置（8本）については横断測量を行い、ダム湖内の堆積量を推定するものとする。

第9条（報告書のとりまとめ）

- 1 報告書は以下の成果品をとりまとめ、製本(2部)及び電子記憶媒体(2部)で提出すること。

神路ダム 観測手簿・深淺測量記録紙・横断図・経年横断図・堆砂量計算書
作業写真・その他必要な資料

恵利原ダム 観測手簿・精度管理表(横断点検測量図含む)・横断図
経年横断図・堆砂量計算書・作業写真・その他必要な資料

- 2 経年横断図及び堆砂量計算等に必要な資料は発注者から貸与するものとする。
- 3 神路ダムにおける堆砂測量については、仮堆砂計測線（現実に堆砂が発生と思われる底面付近の高さ）の数値を定数とする。（H16年度から）

〈その他〉

第10条（その他留意事項）

- 1 ダムは、水道用水の水源地であり、衛生的見地により十分注意を払うこと。
- 2 作業中は樹木・芝等に損傷を与えないよう留意すること。万一損傷を与えた場合は、請負者の負担においてこれを補修すること。
- 3 作業中は安全確保に十分留意し、特に神路ダム等への転落事故防止に努めること。
- 4 業務上、不明な点が生じた場合は、速やかに監督職員に報告し、協議するものとする。
- 5 堆砂測量の実施及び結果報告書の提出は12月末までとする。
- 6 作業実施については必ず監督職員と工程等について事前に打合せを行うものとする。